

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103986		
法人名	有限会社 アルファメディカル		
事業所名	ハートヴィレッジ老松		
所在地	岐阜県岐阜市老松町10		
自己評価作成日	平成22年8月31日	評価結果市町村受理日	平成22年12月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170103986&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成22年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市内の中心部にあり、近隣からの利用者が多く、家族・友人が立ち寄りやすい為、住みなれた地域の中での暮らしが継続されている。近くには公園、神社があり、そこでの夏祭り等、地区の行事にも参加し地域に開かれている。
 建物は3階建てで、1階は関連機関のデイサービス。
 施設内では、家庭的な雰囲気を利用者の笑顔がみられる。母体が医療機関で訪問看護を含めた医療と介護が連携を密にし、利用者はもちろん家族も安心して生活できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の会話や表情をのがさず、常に「利用者第一に優先する」を理念に実践している。利用者の希望にあわせ職員体制を整えながら、買い物・外食・馴染みの場所など外出支援をしている。母体である病院や医師と連携をとり、利用者の体調や状態に合せ、訪問看護・訪問リハビリを取り入れており安心できる事業所である。職員には意識調査や面談を実施して、提案や意見をサービスや運営に反映し、職員のモチベーションを上げることに繋げている。また内部・外部の研修に参加し、実情に添った介護技術を職員間で学びながらサービス向上に努めている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先に掲げている。ミーティングの際に読み上げ、再認識の場としたり、日常介護の際も利用者本位になっているか基本に立ち返り取り組んでいる。又、名札の裏に理念が記載され、常に理念を意識できるよう配慮している。	理念「利用者第一主義」を全職員は周知し、振り返りながら日々のケアに取り組んでいる。また、日常利用者の訴えを優先する事を心がけている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し、回覧板も回ってくる。散歩、買い物の際に挨拶をしたり、老松の行事には案内を出し、近隣の方々を招いている。地域の行事には利用者と一緒に参加している。	自治会に加入し、回覧板で情報を得て総会・忘年会や防災訓練等に参加している。事業所の行事案内は戸別に配布し参加を呼びかけている。少しずつ参加者が増し交流が深まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室の開催には至っていないが、利用者の日常支援を第一にし、散歩・買い物等をする事で認知症ケアの啓発に努めている。又、人材育成の貢献として、実習生の受け入れを行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、地域包括支援センター、自治会長、家族代表、本人が出席。活動報告をする事で老松の理解を深めることに役立てたり、アドバイスを頂いている。	前回の改善課題に取り組み、運営推進会議録を作成し参加者に配布している。職員も改善課題を意識し、サービスの向上に繋げている。しかし地域の参加メンバーが限られ意見を聞くまでに至っていない。	自治会役員・家族等に参加依頼をするなど、事業所運営に地域との連携を更に図ることが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	スプリンクラーに関し、担当者と相談する機会を持ち、今年度中に設置する事となる。	何度も市担当者と相談しながら書類を整え、スプリンクラーの設置にこぎつけ、家族に報告している。日頃から介護支援専門員が向き担当者との協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内外の勉強会や研修会で理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいます。事故防止する環境作りに配慮し、足元に物を置かない、ベットを低くする等の工夫をしている。	身体拘束について正しく理解し、内部研修で継続学習をしている。特に座位保持には職員で確認しながら、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、ミーティング時に個々のカンファレンスを行い問題点等について話し合い、身体的・精神的虐待につながらないようにしている。		

グループホーム ハートヴィレッジ老松

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している方が2名あり、面会時等にもこれらの制度について、スタッフを交え話し合う機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明を十分に行い、利用者家族の納得を得た上で、手続きを進めている。又、契約解除に際しては十分な説明と話し合いを段階を経て行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時や電話等でも、意見や苦情を受けたときには皆で話し合い、又運営推進会議には市の職員や利用者・家族にも出席してもらい、意見を取り入れている。	職員は「苦情は宝」と捉え家族に声をかけ、意見や苦情など言いやすいよう心がけている。玄関が職員の駐輪場になっていたが、家族から車の出入りに不都合との意見を受け、場所を裏に変えるなど運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りノートで職員の意見や提案を聞く機会をもうけている。外国人の職員の不得意とする部分を職員同士が支えあう関係が出来ている。	管理者は職員に年2回の意識調査をして、提案や意見の把握に努めている。また、直接面談するなど、意見を反映しながら職員のモチベーションを上げることに繋げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がストレスをためず、モチベーションが上がるように休憩室の確保や健康診断の実施などを行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員が質を向上させていけるよう、内外の研修を受ける機会をもうけ、研修内容をミーティングなどで報告、話し合っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の交流や1階デイサービスとも、催し物などを計画し、利用者も楽しみ、サービスの向上につながるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、本人の求めていることや不安を理解しようと工夫している。本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで落ち着いてもらい、次の段階につなげている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや、苦しみ、不安、喜び等を知ることにより、分かち合い共に支えあえる関係に留意している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、本人と一緒に支える為に、家族と同じような思いで支援していることを伝える。来訪時は、本人と家族が潤滑油になるよう心掛けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と居室で一緒に食事をしたり、買い物に行ったり、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。又、友人・知人の訪問も多く、継続的な交流ができるよう働きかけている。	華道の先生である利用者へお弟子さん達の訪問や、花屋から花が届くなど継続支援をしている。喫茶店で馴染みに出逢ったりワープロで家族や話したい人への手紙を職員が投函している。事業所は常に馴染みの人との関係継続に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談にのったり皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後や入院となった場合でも、利用者家族からの相談や支援に応じながら経過を見守っている。時には、行事に参加していただいたり遊びに来ていただけるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が日常生活の会話や、係わり合いの中で、言葉や表情などからも思いや意向の把握に努めている。又、家族や友人からの情報を得ることで検討している。	家族や主治医・職員への思いを得意なワークプロで聞いている。利用者と二人になれる場所でゆっくり話を聞くなど意向の把握に努めている。困難な利用者には、日常折々の表情や動作から気づいたことを記録に残し職員間で検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族はもちろん面会時、友人・知人より今までの生活を聞いて、情報を把握し職員全体で共有し活かしていく。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズム、心身の状態を把握し、その方のペースで過ごしていただけるよう支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで職員全員から意見を聞き、介護計画を作成している。又、家族や理学療法士など、必要な関係者とも話し合っている。	利用者ごとの担当者を中心に、介護記録や本人・家族の意見を基に職員間で検討し、必要に応じ専門職の意見を取り入れながら、介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的状況だけでなく、本人の言葉など細かく個別に記録し、介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて買い物に行ったり、季節ごとのイベントや家族・友人との外出・外食等、個々の満足度を高めるよう努力している。		

グループホーム ハートヴィレッジ老松

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援する為、法人内の保育園児との交流や地域のイベント、お祭りにできるだけ多くの人に参加してもらい、楽しいひと時を過ごしていただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度の往診と訪問看護の実施、リハビリの理学療法士来所など、他科の複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	協力医院(内科・整形)は週1回の往診と、歯科・泌尿器科は必要に応じ訪問診療を受けている。馴染みの医師への受診は家族にお願いしているが、常に連絡を密にして適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から介護職との関係を密にし、情報交換及び連携を持ち、健康管理や医療面での相談・助言、対応を行えるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人のストレスや負担を軽減し、家族と相談しながら医療機関に対して、本人に関する情報を提供し速やかに退院に向けて支援をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師との連携を取っている。早い段階から話をして、十分な理解を得られるように事業所でできることを説明し、方針を共有している。	利用者・家族には早期から事業所の体制を説明し、現在看取りの支援はしていない。しかし利用者の高齢・重度化に伴い本人・家族の意向があれば、今後看取り支援に向けて、体制やマニュアル作りの検討をしている。	看取りについて、本人・家族・職員等の理解を得ながら、検討することが望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や救急の初期対応ができるよう、パンフレットなどによって学習の機会を持っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難できる方法としては、法定の6ヶ月毎に訓練を実施している。地域との協力体制に関しては、住民の理解をはじめ、思案中であるも積極的に協力を得ていこうという段階である。	年間計画に基づいた避難訓練と、別に夜間想定した訓練を実施している。非常口を増設したり、自家発電を完備している。地域との連携も運営推進会議で話し合い協力を求めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心掛けている。特に排泄や入浴ではプライバシーに配慮し、対応している。	利用者の自尊心を損ねることなく、自己決定しやすい言葉使いをするよう気をつけている。特に、排泄介助には他の利用者には気づかれない配慮をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者が、自分で決める場面をつくっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のコンディション、様子をみながら本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていただいている。行きたいところへ外出したりして、個別対応に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来てもらい、本人の好みの髪型を聞きカットしてもらったり、本人の意向に応じ、その人らしいお洒落や身だしなみを個別に支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に何度か希望メニューを聞き、食事作り、おやつ作りを職員と共に調理、盛り付けている。	希望のメニューを取り入れ、献立も重ならないよう配慮している。パンにしたり形態を変え、「えー匂いやなぁ」と食欲が増す工夫もしている。利用者の介助やペースにあわせ職員も一緒に楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。一人ひとりの状態に合わせて、食事形態を変えている。(刻み・ミキサー)食べられない物はメニュー変更をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、食後は洗面所に行っていただくよう声をかけ、介助し実施の記録をしている。		

グループホーム ハートヴィレッジ老松

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄のパターンを職員全員が把握しており、排泄チェック表を使用して、時間を見計らってトイレ誘導等の支援をしている。	利用者の状態や排泄パターンを把握し、介助方法を工夫している。便秘がちな利用者や頻回介助の利用者など、医師とも相談しながら支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記録、使用して水分量の配慮や、飲食物の工夫をし、ここに応じた対応をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番風呂に入りたい方、声をかけても入りたがらない方など、一人ひとりの要望・体調に合わせた対応をしている。	入浴時間は午後で、一人ひとりの希望に合わせている。入浴拒否の利用者にはタイミングを図って声かけしている。利用者によって2人介助の場合も、せかさずゆっくり出来るよう気配りし、好みの入浴剤も準備している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣や日々の体調を把握し、安心して休息していただけるよう支援している。又、日中は活動を促し、生活のリズムを整えるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルにて薬の処方箋を個々にまとめ、内容を分かるようにしている。又、薬の変更や服薬後の変化がある場合は、記録を取り、職員が把握できるように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできることをお願いし、やっていただいた後はお礼を伝えるようにしている。又、希望や体調にあわせて、地域のイベント等に参加している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にあわせて、買い物へ出かけたり、散歩へ誘ったりして外へ出る機会をつくるよう努めている。	散歩時、近隣玄関先の花を話題に住民と話したり、神社やスーパーに出掛けている。職員体制を整え、希望にあわせ喫茶店・外食・ドライブに出掛ける支援をしている。	

グループホーム ハートヴィレッジ老松

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の了解を得て、お預かり金として預かっており、買い物等に利用している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状やお礼状など利用者の希望に応じて、電話や手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品など、利用者にとってストレスにならない物や懐かしく感じる物などを選び置いている。スタッフと利用者の共同作業の物を身の回りに置く等している。	ユニットごとの玄関には季節の花や趣味のものを飾り特色を出している。廊下には利用者の暮らしの様子の写真を張り、家族の訪問時の話題としている。照明や音・温度にも気を配り、居室も個々の暖簾を飾り居心地よい工夫をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングルームにソファを置いている。仲の良い利用者同士、同じテーブルにしたり問題が生じた場合、小さいテーブルの組み合わせに変えたりして、座席の配慮をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、家族の写真、寝具、ワープロ、時計、冷蔵庫、テレビ等を持ち込んでもらっている。居室に本人の写真や好みのカレンダーを飾り、その人らしい環境作りをしている。	きちんと整理した居室・使い慣れた道具や衣類がある居室、チラシの切り抜き絵を飾った居室など、それぞれに生活感がある工夫をしている。好みの雑誌・新聞などを手の届く場所に置き暮らしよい居室作りをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自由に安全に居室に行けるよう、廊下に手すりを付けている。本人の部屋と分かるように、手作りの表札をつけたり暖簾をかけ、トイレには目印を付けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103986		
法人名	有限会社 アルファメディカル		
事業所名	ハートヴィレッジ老松		
所在地	岐阜県岐阜市老松町10		
自己評価作成日	平成22年8月31日	評価結果市町村受理日	平成22年12月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170103986&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成22年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先に掲げている。ミーティングの際に読み上げ、再認識の場としたり、日常介護の際も利用者本位になっているか基本に立ち返り取り組んでいる。又、名札の裏に理念が記載され、常に理念を意識できるよう配慮している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し、回覧板も回ってくる。散歩、買い物の際に挨拶をしたり、老松の行事には案内を出し、近隣の方々を招いている。地域の行事には利用者と一緒に参加している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室の開催には至ってないが、利用者の日常支援を第一にし、散歩・買い物等をする事で認知症ケアの啓発に努めている。又、人材育成の貢献として、実習生の受け入れを行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、地域包括支援センター、自治会長、家族代表、本人が出席。活動報告をする事で老松の理解を深めることに役立てたり、アドバイスを頂いている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	スプリンクラーに関し、担当者と相談する機会を持ち、今年度中に設置する事となる。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内外の勉強会や研修会で理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいます。事故防止する環境作りに配慮し、足元に物を置かない、ベットを低くする等の工夫をしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、ミーティング時に個々のカンファレンスを行い問題点等について話し合い、身体的・精神的虐待につながらないようにしている。		

グループホーム ハートヴィレッジ老松

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している方が2名あり、面会時等にもこれらの制度について、スタッフを交え話し合う機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明を十分に行い、利用者家族の納得を得た上で、手続きを進めている。又、契約解除に際しては十分な説明と話し合いを段階を経て行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時や電話等でも、意見や苦情を受けたときには皆で話し合い、又運営推進会議には市の職員や利用者・家族にも出席してもらい、意見を取り入れている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りノートで職員の意見や提案を聞く機会をもうけている。外国人の職員の不得意とする部分を職員同士が支えあう関係が出来ている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がストレスをためず、モチベーションが上がるように休憩室の確保や健康診断の実施などを行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員が質を向上させていけるよう、内外の研修を受ける機会をもうけ、研修内容をミーティングなどで報告、話し合っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の交流や1階デイサービスとも、催し物などを計画し、利用者も楽しみ、サービスの向上につながるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、本人の求めていることや不安を理解しようと工夫している。本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで落ち着いてもらい、次の段階につなげている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや、苦しみ、不安、喜び等を知ることにも努め、分かち合い共に支えあえる関係に留意している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、本人と一緒に支える為に、家族と同じような思いで支援していることを伝える。来訪時は、本人と家族が潤滑油になるよう心掛けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と居室で一緒に食事をしたり、買い物に行ったり、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。又、友人・知人の訪問も多く、継続的な交流ができるよう働きかけている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談にのったり皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後や入院となった場合でも、利用者家族からの相談や支援に応じながら経過を見守っている。時には、行事に参加していただいたり遊びに来ていただけるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が日常生活の会話や、係わり合いの中で、言葉や表情などからも思いや意向の把握に努めている。又、家族や友人からの情報を得ることで検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族はもちろん面会時、友人・知人より今までの生活を聞いて、情報を把握し職員全体で共有し活かしていく。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズム、心身の状態を把握し、その方のペースで過ごしていただけるよう支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで職員全員から意見を聞き、介護計画を作成している。又、家族や理学療法士など、必要な関係者とも話し合っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的状況だけでなく、本人の言葉など細かく個別に記録し、介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて買い物に行ったり、季節ごとのイベントや家族・友人との外出・外食等、個々の満足度を高めるよう努力している。		

グループホーム ハートヴィレッジ老松

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援する為、法人内の保育園児との交流や地域のイベント、お祭りにできるだけ多くの人に参加してもらい、楽しいひと時を過ごしていただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度の往診と訪問看護の実施、リハビリの理学療法士来所など、他科の複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から介護職との関係を密にし、情報交換及び連携を持ち、健康管理や医療面での相談・助言、対応を行えるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人のストレスや負担を軽減し、家族と相談しながら医療機関に対して、本人に関する情報を提供し速やかに退院に向けて支援をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師との連携を取っている。早い段階から話をして、十分な理解を得られるように事業所でできることを説明し、方針を共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や救急の初期対応ができるよう、パンフレットなどによって学習の機会を持っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難できる方法としては、法定の6ヶ月毎に訓練を実施している。地域との協力体制に関しては、住民の理解をはじめ、思案中であるも積極的に協力を得ていこうという段階である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心掛けている。特に排泄や入浴ではプライバシーに配慮し、対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者が、自分で決める場面をつくっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のコンディション、様子をみながら本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていただいている。行きたいところへ外出したりして、個別対応に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来てもらい、本人の好みの髪型を聞きカットしてもらったり、本人の意向に応じ、その人らしいお洒落や身だしなみを個別に支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に何度か希望メニューを聞き、食事作り、おやつ作りを職員と共に調理、盛り付けている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。一人ひとりの状態に合わせて、食事形態を変えている。(刻み・ミキサー)食べられない物はメニュー変更をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、食後は洗面所に行っていただくよう声をかけ、介助し実施の記録をしている。		

グループホーム ハートヴィレッジ老松

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄のパターンを職員全員が把握しており、排泄チェック表を使用して、時間を見計らってトイレ誘導等の支援をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記録、使用して水分量の配慮や、飲食物の工夫をし、ここに応じた対応をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番風呂に入りたい方、声をかけても入りたがらない方など、一人ひとりの要望・体調に合わせた対応をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣や日々の体調を把握し、安心して休息していただけるよう支援している。又、日中は活動を促し、生活のリズムを整えるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルにて薬の処方箋を個々にまとめ、内容を分かるようにしている。又、薬の変更や服薬後の変化がある場合は、記録を取り、職員が把握できるように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできることをお願いし、やっていただいた後はお礼を伝えるようにしている。又、希望や体調にあわせて、地域のイベント等に参加している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望にあわせて、買い物へ出かけたり、散歩へ誘ったりして外へ出る機会をつくるよう努めている。		

グループホーム ハートヴィレッジ老松

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人・家族の了解を得て、お預かり金として預かっており、買い物等に利用している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>年賀状やお礼状など利用者の希望に応じて、電話や手紙を出せるよう支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>調度品など、利用者にとってストレスにならない物や懐かしく感じる物などを選び置いている。スタッフと利用者の共同作業の物を身の回りに置く等している。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下やリビングルームにソファを置いている。仲の良い利用者同士、同じテーブルにしたり問題が生じた場合、小さいテーブルの組み合わせに変えたりして、座席の配慮をしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>仏壇、家族の写真、寝具、ワープロ、時計、冷蔵庫、テレビ等を持ち込んでもらっている。居室に本人の写真や好みのカレンダーを飾り、その人らしい環境作りをしている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者が自由に安全に居室に行けるよう、廊下に手すりを付けている。本人の部屋と分かるように、手作りの表札をつけたり暖簾をかけ、トイレには目印を付けている。</p>		